

会員様

熊本県薬剤師会共催 多職種連携研修会

日 時：令和8年1月18日(日) 9:30～12:30

会 場：熊本県薬剤師会館 多目的大ホール ※オンライン配信はございません
熊本市中央区萩原町10-6 TEL096-370-5800

対象者：会員・スタッフ（先着30名）

講演Ⅰ 9:30～10:05

「MRONJの現状や症例供覧」

「抗血栓薬内服患者に対して歯科医師が気をつけていること」

熊本大学病院 歯科口腔外科 助教 平山 真敏 先生

講演Ⅱ 10:05～10:35

「薬を飲むから考える～多職種で取り組む服薬支援～」

御幸病院 薬局 森 直樹 先生

講師の抄録は裏面をご覧ください。

グループワーク・発表 10:35～12:30

テーマ「地域連携について（仮）」

令和8年1月18日 多職種連携研修会 お申込みについて

< 申込締切日 令和8年1月9日(金) >



開催日 令和8年1月18日(日)
開催時間 9時30分～12時30分
オンライン配信はございません
お申込みはコチラ（グーグルフォーム）
または下記URLよりお申込みください
URL <https://forms.gle/uQ9eaSBcCsAzEhNh6>

- 上記のQRコードをスマホなどのカメラで読み取り参加申込みを行ってください。
QRコードの読み取りができない場合はインターネットブラウザにURLをご入力いただき、
お申込みをお願い致します。
ご記入いただいた情報は本講演会以外の目的に使用することはございません。
- 登録完了後、入力いただいたメールアドレスに確認メールが届きます。
確認メールが届かない場合、迷惑メールフォルダーに振り分けられていないかご確認ください。
届いていなければ、メールアドレスの入力間違いの可能性がございますので、再度お申込みをお願い致します。

講演 I

「MRONJの現状や症例供覧」 「抗血栓薬内服患者に対して歯科医師が気をつけていること」

熊本大学病院 歯科口腔外科 助教 平山 真敏 先生

本発表では、① 薬剤関連顎骨壞死 (MRONJ)、② 抗血栓薬内服患者について歯科医師が注意していることの 2 点について発表を行う。

- ① ビスフォスフォネート製剤やデノスマブ製剤などの骨吸収抑制薬に関連して発生する MRONJ は年々増加傾向にあり、歯科口腔外科のみならず、他科医師や薬剤師など多職種との連携・情報共有が不可欠である。本発表では、MRONJ について、近年改訂されたポジションペーパーの概要と症例を提示し、最新の動向について報告する。
- ② 高齢化に伴い抗血栓薬を内服する患者は増加している。歯科口腔外科手術では、「抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン」を参考に、手術時の抗血栓薬の継続・休薬を判断することが多い。しかし、口腔外科手術と一口にいっても、抜歯などの Minor surgery と口腔癌手術などの Major surgery では、抗血栓薬の取り扱いが異なることが多い。本発表では、口腔外科手術における抗血栓薬管理の現状について報告する。

講演 II

「薬を飲むから考える ~多職種で取り組む服薬支援~」

御幸病院 薬局 森 直樹 先生

超高齢社会へ歩みを進めている中、医療や介護の分野で様々な課題に直面します。薬物療法においても高齢者は複数の慢性疾患を有し多数の薬剤を服用しています。多くの因子が複雑に絡み合う高齢者医療においては、投与量の調節や服薬支援の方法などで適切な回答を導き出すことが難しくなります。患者を目の前にした時、患者の疾患、検査値、処方内容、日常生活動作 (ADL)、生活環境を多職種で十分に把握して、多角的に高齢者総合機能評価 (Comprehensive geriatric assessment : CGA) を行うことが重要です。実際に、高齢者医療の現場では加齢や脳の疾患に伴い、認知機能、手指機能、視力・聴力、摂食嚥下機能などの様々な機能が低下することで「薬を飲む」という行為が難しいケースに遭遇することも少なくありません。今後、薬剤師が直面する高齢者医療において、嚥下機能の評価は極めて重要であり、嚥下障害患者の薬学的管理について注意すべき点は多く存在します。今回、嚥下の基本的な評価や服薬に関わる剤形選択、嚥下障害患者への服薬支援、多職種との連携など、嚥下にまつわる様々な視点から薬剤師が評価したいポイントを紹介させていただきます。病院内、訪問スタッフ・リハビリといったチームでの高齢者医療における薬剤師の役割や行動を考えるきっかけになれば幸いです。

日歯生涯研修コード： 2303（1単位） 3412（1単位）